

天地の恵みをいただいで

天地の恵み

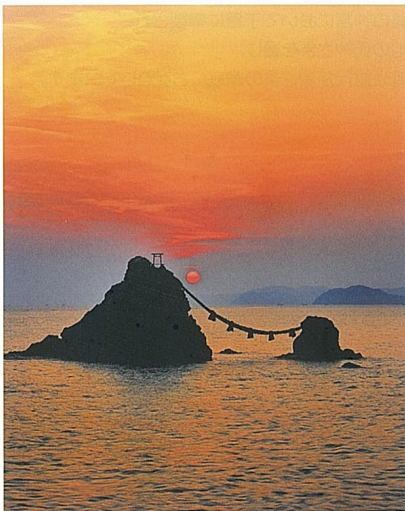
この世に生きる全てのものは、天地の恵みによつて生かされ、神々のご守護によつて生活を営んでいます。

すなわち、お伊勢さまの「天の恵み」と、氏神さまの「地の恵み」とがあなたも車の両輪のごとくにひとつとなつて、より尊いご神威があらわれ、より一層のご守護をいただけるのです。

それゆえ、お伊勢さまと氏神さまのお神札をおまつりして、私たちは国の隆昌と家庭の幸せをお祈りするのです。

お伊勢さまの神事

伊勢の神宮では年間千五百回ものお祭りが執り行われていきます。四季折々の時の流れのなか、お祭りを通して日本の発展と国民の幸せ、世界の平安をお祈りしています。



夫婦岩（三重県伊勢市）

写真提供:PIXTA

天の恵み

お伊勢さまのお神札

伊勢の神宮は、三重県伊勢市鎮座の皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）を中心に、近在の百二十五のお社から成ります。

皇大神宮は、天照大御神さまをおまつりし、「日本人の心のふるさと」と親しまれております。皇室のご祖先の神さまであり、また私たち国民の総氏神さまでもあります。

その広大無辺のご神徳は太陽にたとえられ、「天の恵み」と仰がれます。

地の恵み

氏神さまのお神札

氏神さまは、日本全国津々浦々に地域住民の心のよりどころとしておまつりされています。

都会にあつては諸産業を、農村にあつては農業を守護し、漁港にあつては大漁をもたらすなど、その土地に暮す全ての人々（氏子）と、その生活をお守りくださる、最も身近な神さまです。

親が我が子を慈しむような、大地が五穀を育むようなそのご神徳は、「地の恵み」と称えられます。



写真提供:神宮司庁

お神札のまつり方

お神札は、南か東に向くようにおまつりしましょう。

並べてまつる場合



中央に神宮大麻、向かって右に氏神さま、左に崇敬する神社のお神札

重ねてまつる場合



手前に神宮大麻、つぎに氏神さま、一番奥に崇敬する神社のお神札

新たな年に瑞々しい生命を

お正月を迎えるにあたり、お伊勢さまと氏神さまのお神札を新しいものに取り換えます。

これは、より新しいお力、より新しい生命をいただくという意味があり、日本の伝統、先祖伝来の美しい風習です。現在神棚がないご家庭や事業所は、この機会に神棚をおまつりになつてはいかがでしょうか。

神棚のないご家庭では、タンスや本棚の上をきれいにし、そこに宮形（お社）を置くのもよいでしょう。また、壁掛けにもできる小型の宮形もあります。神前には、米・塩・水などの他に季節の初物、お土産なども感謝の気持ちをごめてお供えし、拝礼しましょう。

大祓（おほはらえ）

